

学年	科	コース	教科	単位数	担当者
3	電子機械工学科		環境工学基礎	1	鈴木
担当者(担当クラス)		3年2組			
この科目を履修するための条件や準備					
<ul style="list-style-type: none"> ・中学校の教科「技術・家庭」で学んだ環境に関する基礎知識。 ・地球規模の環境問題や持続可能な人間活動について興味・関心をもつこと。 ・教科書・ノートを持参すること。 					
この科目のねらい 目標					
工業生産において環境への配慮が重要であることを理解し、自然科学的および工学的な観点から環境の改善に必要な知識を習得させ、環境に関する調査、評価、管理などに活用する能力と態度を育てる。					
具体的な指導方法					
講義形式で環境工学に関する基礎知識を習得するとともに、アクティブラーニング(学習者である生徒が、能動的に学ぶことができるような授業を行う学習方法)を取り入れ、地域の身近な環境問題について、調査、報告書の作成、発表を行う。					
使用教材					
使用する教科書			使用する副読本		
7実教出版 工業314 環境工学基礎			なし		
評価方法					
定期考査(年間3回)・平常点(授業に取り組む姿勢や態度・提出物・出席状況など)などで総合的に行う。					
年間授業計画					
I. 1学期期末考査まで					
第1章 地球と人類(教科書15～36ページ)					
1節 地球の成り立ち					
2節 地球上の資源					
3節 世界の資源と人間					
第2章 社会と環境(教科書37～56ページ)					
1節 社会と環境の歴史					
2節 日本の環境政策					
第3章 地球温暖化とエネルギー(教科書57～84ページ)					
1節 地球温暖化とその影響					
2節 エネルギーの利用技術と地球温暖化対策					
→4・5月の課題及び1学期期末考査後の補充授業で対応。					
II. 2学期期末考査まで					
第4章 廃棄物とリサイクル(教科書85～108ページ)					
1節 廃棄物の現状					
2節 廃棄物の処理技術と管理					
第5章 地球環境の保全(教科書109～144ページ)					
1節 大気汚染の現状と対策					
2節 水質汚染の現状と対策					
3節 土壌・地下水汚染の現状と対策					
4節 騒音・振動・臭気の現状と対策					
第6章 産業と環境(教科書145～176ページ)					
1節 産業界の環境管理の取り組み					
2節 環境リスクと安全管理の取り組み					
3節 省エネルギーの取り組み					
4節 廃棄物処理とリサイクルの取り組み					
5節 大気・水環境保全への取り組み					
III. 学年末考査まで					
第7章 都市・生活と環境(教科書177～209ページ)					
1節 都市システムと環境					
2節 住環境と健康					
3節 環境保全に向けたさまざまな取り組み					